

2018/06/06

国際文化学部国際文化学科 3 年

16011004 市木陽

## 青島大学での授業

### 1. 授業のクラスについて

青島大学での授業は、クラスが、中国語初級 101A/B～104A/B、中級 201A/B～202A/B、高級 301A/B～302A/B と、細かく分かれている。そのため、自分のレベルに応じたクラスを選ぶことができる。A クラスと B クラスの学習内容は同じだが、先生が異なる。また、担当教員によって授業形態や進度も違いがある。したがって、教員との相性やクラスの雰囲気など、様々なことを考慮して自分に合ったクラスを選び、無理なく学ぶことができる。

私は、初級 104B クラスの授業を履修している。104 クラスには中国語総合、中国語口語、中国語聴力の 3 科目の授業がある。クラスによって学ぶ内容は様々だが、104 クラスは初級の一番上のクラスであり、少し専門的な語彙・文法や内容もある。私は日本で中国語検定 3 級を取得してから留学に行った。最初に 104 クラスの教科書の内容を見た時は、少し簡単と感じた。しかし実際に受講してみ



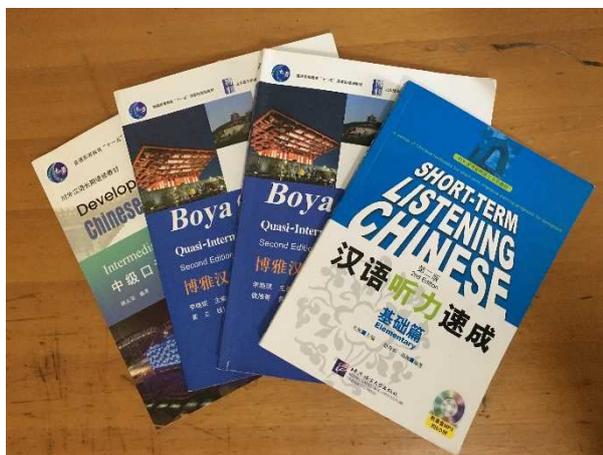
ると、教員は語彙・文法や内容の説明など授業を全て中国語で行ない、もちろん学生も中国語で発言するという環境に慣れておらず、聞き取れないところや発言できないことも多く、自身のリスニングとスピーキングの両能力・水準に照らし合わせると、このクラスが妥当であると考えたため、総合的に考慮してこのクラスに決めた。また、教員との相性も良く、授業形態も自分に合っていたことも決め手の一つとなった。さらに、104B クラスには 8 か国の留学生がおり、他のクラスより国際色豊かで、様々な国の人と交流できると思い、このクラスを選んだ。

毎日中国語に触れる環境にいるため、一か月が経つ頃には、教員の話や説明はほとんど聞き取れるようになり、中国語での発言にも次第に慣れるようになった。友達との会話も内容がより深いものとなり、冗談も通じるくらいになった。この頃になると、授業内容を簡単と感じ、内容的にはもう一つ上のクラスである 201 クラスが合っていると思うようになった。中国語検定 3 級を取得している人は 201 クラスがレベル的に丁度良いかもしれない。最初のうちは聞き取れないことや発言できないことに焦燥感や危機感があるが、一か月も経てば慣れる。しかし、大前提として単位を取得する必要があるので、交換留学生は確実に単位

が取れるクラスを選ぶことが重要である。

## 2. 授業について

先にも書いたが、私は中国語総合、中国語口語、中国語聴力の3科目の授業を受けている。中国語総合は毎日授業があり、中国語口語は週に3回、中国語聴力は週に2回ある。一つずつ紹介していくと、一つ目の中国語総合はリーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの全ての能力が必要とされる科目である。この授業では教科書の本文を読み文法を学ぶだけではなく、プレゼンテーシ



ョンや作文もよく行う。そのため、3つの授業の中で最も難しい授業といえる。二つ目の中国語口語は、実際に会話で使う文章を中心に文法を学習していく。この授業はスピーキングを重点に置いて、5分間のフリートークをすることがある。三つ目の中国語聴力では、リスニングを行うだけではなく、時々スピーキングも行う。

さらに、一科目につき一回、文化活動というものがあり、先日行った文化活動では、それぞれ各国の美味しいお菓子を持参し、各国の有名な曲を聴きながら食べるという内容であった。各国の文化や嗜好、感覚の違いを改めて感じるだけではなく、コミュニケーションをとる上で、お菓子や音楽はお互いの交流をより深いものとする良いツールとなると改めて感じ



た。クラスの雰囲気もさらに良いものとなり、先生と留学生の距離もさらに近くなったと感じた。

どの授業も進むのが早く、毎日の予習・復習が不可欠である。授業は参加型で、指名されるのを待つのではなく、自らから発言していくといった授業形態である。分からない点があったら、その場で質問をする。この点は日本とは少々異なるが、私はこれを良い機会ととらえて積極的に発言するようにしている。発言することで、さらに理解が深まると思う。また、「あなたの国ではどうなの？」のように、自国の文化や慣習について聞かれることがとても多い。私は留学に来て初めて、日本の文化や慣習に関する知識の不足や認識の低さを強く感じた。外国の文化を学ぶ前に、自国の文化に対する理解は欠かせないと反省する良い機会となった。

### 3. 成績について

今学期は3月8日から開始され、7月6日に終了する。成績は教員により評価方法が異なるが、私のクラスは学習態度（出席率、課題提出、授業への参加度）が30%、試験70%で構成されている。試験は、一科目につき4回（小テスト（1）、中間テスト、小テスト（2）、期末テスト）がある。中間テストと期末テストは70%の内の50%を占めるので、とても重要なテストである。私は小テスト（1）と中間テストを既に受けたが、授業の内容を理解していたら解ける問題が多く出題されているという印象だった。中国語総合と中国語聴力は筆記問題と選択問題など一般的な出題形式のテストである。中国語口語は、教員やクラスメートとの二人一組での会話テストや文章の朗読テストなど、日本ではあまり見られない形式のテストもある。教員によっては成績上位数名を開示することもあり、良い意味で互いに刺激をし合いながら学ぶことができている。細かくテストを実施することで、自身の中国語の習熟具合が明確に示され、その後の中国語学習へ活かせるだけでなく、中国語を学ぶモチベーションにも繋がっている。



留学には、学校の授業での学習を軸に、友達との食事や遊び、旅行など、その他の様々な要素も含まれていると私は思う。私はよく友達と食事に行き、おしゃべりをして楽しんでいる。多くの人と交流することで、自然と自身の中国語も上達していく。また、異なる文化や異なる社会的、歴史的背景を持つ友達と交流することで、様々な考え方に接することができる。自身の物事に対する考え方や見方をより豊かなものにすることができる。新しい発見も多く、視野が広がる。友達との交流の中には、学校や教科書では学ぶことのできない多くの学びがあると思う。そのため、毎日の授業を一生懸命受けることはもちろんだが、毎日の友達との交流も同じように一生懸命行うようにしている。